

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300060		
法人名	株式会社 健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホーム たんより かわせみユニット		
所在地	静岡県周智郡森町草ヶ谷212番地の1		
自己評価作成日	令和元年7月20日	評価結果市町村受理日	令和元年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2296300060-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たんよりに入居していただくということは、その方の終末期までの責任を負うという覚悟を持ち、人生の最期を看取ることも当然に行なっています。前回評価以来3名の看取りを行い、計10名の方をたんよりからお見送りさせていただきました。また、看取りを含めた介護業務が、職員の仕事に対するやりがいとなっているということも評価できると思います。たんよりに入居し生活していただくことが、入居者本人にとってもご家族にとっても安心していただけるよう、今後も公立森町病院や森町役場、近隣施設、地域の方々との交流を大切にして行きたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「やさしさ・安心・安寧」に基づき毎年事業所ではキャッチフレーズを設けており、今年度は「穏やかに笑顔で協力し、入居者の皆様と楽しい時間を過ごそう」と定め、日々実践していることは玄関での出迎えの挨拶やお茶出しの所作からも十二分に伝わります。また運営推進会議は今年度から職員が参加していて、最大で8名と意欲的な出席率となり、委員会活動の発表などを通じて地域へ向け理解を高めています。特に家族が「看取り体験」をスピーチくださった回は、参加メンバーにとって意味深い機会となり、「事故報告はオープンな体制が感じられ、よかった」とプログラムや進行についても評価を得ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は『やさしさ・安心・安寧』を掲げています。今年度は『穏やかに笑顔で協力し、入居者の皆様と楽しい時間を過ごそう』というキャッチフレーズを掲げ日々実践しています。	理念に基づき今年度は「穏やかに笑顔で協力し、入居者の皆様と楽しい時間を過ごそう」というキャッチフレーズを定めています。自分たちで決め日々実践していることは玄関での出迎えの挨拶やお茶出しの所作から十分伝わります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティアや近隣住民の方が引き続きレクリエーションや畑の管理、農作物の差し入れ、雛人形の飾りをして下さっています。今年度も認知症カフェを地元高校生と共に開催する予定です。地域の夏祭りや文化祭にも毎年参加しています。	来月予定される地域の納涼祭にはドリンクコーナーを担当することになっていて、利用者だけでなく職員も盆踊りを楽しみにしています。また中学生の福祉体験は毎年10名近くの来所があり、一緒に撮った写真をプレゼントしたり、生徒からも手紙が届いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	たんより通信という新聞形式のものを発行し回覧していただいたり、運営推進会議で日々の状況を報告しています。認知症対策検討委員会への参加や他職種カンファレンス、認知症カフェの開催や参加を通じ、情報交換しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には入居者家族だけでなく、町内会長・副会長・民生委員、地域包括支援センターから参加して下さいました。また今年度より職員も全員参加とし、より現場の声を届けることで、アドバイスをいただいています。	運営推進会議は今年度から職員が参加していて、最大で8名と意欲的な出席率となり、委員会活動の発表などを通じて地域へ向け理解を高めています。また家族が「看取り体験」をスピーチくださった事は、常に増して参加メンバーにとって意味深い集いとなりました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	森町役場や地域包括支援センターへは今も変わらず積極的に訪問することを心掛け、情報交換を直接行っています。介護相談員も引き続き定期訪問して下さい、アドバイスをいただいています。他職種合同カンファレンスにも毎回参加し意見を述べています。	認知症対策検討委員会、認知症カフェ開催の役割を担うほか、町の依頼で小学校、病院へと管理者が認知症サポーター養成講座の講師として出向いています。3ヶ月に1度来所する介護相談員は、地域情報だけでなく人材確保にも協力くださり、親身な対応を受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言は継続しています。ホーム会議においては拘束会議を開催し、トイレにもポスターを掲げるなど、職員間で意識統一しています。業務の煩雑な中でもスピーチロックの禁止等も引き続き行っています。	昨年度の法改正では指針を策定し、「拘束廃止委員会」を専門職を含み設置しています。年4回の委員会開催、研修会も規定通り2回を実施し、昨年度の新入社員は定例研修会が真近かだった為、そこに出席することで、知識共有につながっています。	新入社員の入社時期によっては年2回の研修会に間に合わないこともあるため、新入社員向けの研修プログラムを早急に作成することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護施設や介護関連の報道等に留意し、朝礼やカンファレンスで検討し、考える機会としています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も該当する入居者は居ませんが、他職種カンファレンス等ではよく議題にあがっています。参加職員より、情報を周知するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してはご家族様に時間を確保していただき、できるだけわかりやすいよう丁寧に説明することを心掛けています。環境が変化することで心配や不安を少しでも多く解消できるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時にその都度状態を報告・意見交換をしたり、運営推進会議議事録や『たんより通信』、また担当職員からのお手紙を作成し、情報共有を心掛けています。	遠方に住む3家族も安心な「たんより通信」を毎月発行するとともに町内に住む家族も面会に訪れていて、利用者本人の状態を共有しています。また運営推進会議では「安心して任せられる」「たんよりが大好き」と、発言くださった家族もいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼において、日々情報交換や問題共有をしています。必要であれば適宜カンファレンスを行い、問題解決へとつなげるようにしています。毎年賞与時に人事評価を行い、日頃話せないような内容も聞き取るようにしています。	「ケアプラン」「掲示板」「菜園」「通信」「入浴・食事」の係、委員会は「感染」「教育」「拘束」「防災」「リスク」「レク」と沢山の取組みを少人数で担当することで責任感も醸成され、会議の中でも率直で建設的な意見が挙がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、各職員個人の反省と目標設定の機会を設け、業務に対する自己評価を提出してもらい、管理者として評価を行っています。各職員の能力を把握し、業務に対してのモチベーションが保てるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議やカンファレンスにおいて随時勉強会を行い、日々の業務において活用できるよう、職員同士が講師となり勉強の場を持つようにしています。職員の得意分野が活かせるように心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近所に小規模多機能ホームが存在しており、交流させていただいています。遊びに行ったり来たり、夏祭りでも一緒に楽しんでいきます。今年は新入居の方を紹介もさせていただきました。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や入居申込み、事前訪問や入居までの経過において、病状や現在の状況、入居者本人や家族の思いをできるだけ把握し、担当ケアマネージャーや利用施設職員らと情報交換をし、安心していただけるようなケアの提供に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、特に家族としてはどう考えているのか情報収集し、入居環境を整備し、一緒に考えながら問題解決できるようにしています。入居されてからも家族としての俯瞰を解消し信頼関係ができるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等・担当ケアマネージャー、また病院相談員・支援員、利用施設職員らと連携をとり、その時に何が必要なのか、ということを見極め、最善のサービス決定となるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームならではの、出来る事をやっただけという役割分担から、ホーム内の家事等は入居者と一緒に行なっています。可能な入居者はそれぞれに役割が分担され、生活の場を整えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等が、入居者とのホーム入居以前からの関係性を継続できるようにします。面会や外出泊は制限なくいつでも出来るようにしています。気軽に来所していただけるよう、コミュニケーションも心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思い出話や過去の話や傾聴しています。実家や学生時代、戦時中の話題が多いのですが、関連のある内容を提供したり、必要であれば家族等に連絡をとったりします。面会や外出泊は制限なく自由出来る体制をとっています。	年2度ほど家族全員での旅行を繰り返す人のほか、お盆の時期には自宅に1泊する利用者も少なくなく、親戚に囲まれてのひと時を過ごす人もいます。またクリスチャンの利用者には教会が送迎くださり、週1度の信心が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2ユニットではありますが、互いのユニットが行き来できる構造となっているため、ユニットの垣根を越えて良好な関係性ができています。どちらのホールで過ごすか、食事を摂るかなども各入居者の自由であり、孤立することなく過ごしていただいています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの入居者を看取りまで対応させていただいています。死亡退去の場合はデスクンファレンスを行い、職員から家族等へメッセージを届けます。自宅へ退去される場合は退去時指導を通じて、地域包括支援センターへ情報提供しフォロー体制としています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中自室で過ごす方もありますが、ほとんどの入居者がホールで過ごしているため、会話から要望が聞かれることがあり、カンファレンスで共有し対応します。自室で過ごしている方へも訪室時に希望を確認し、対応しています。	「エプロンしてますけど、食事づくりを手伝ってくださったんですか？」と尋ねると、「私、ここで働いているから」と少し自慢げに話してくださる利用者様子からは、日頃しっかりと想いを掴み、本人本位に支援くださっていることが判ります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学や入居申込み、事前訪問、契約時等に生活歴や今までの経過・人物像を情報収集し把握できるようにしています。またケアマネージャーや利用サービス職員へも確認するようにしています。クリスチャンで毎週礼拝に通う方もおり、大切な時間としています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を介護記録として残しており、職員が情報共有しています。一人一人がどのような状態にあるのか、必要時話し合い対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の訴えや生活状況・家族の意見や希望を反映させ、カンファレンスを行い介護計画を検討し立案しています。運営推進会議出席時などに、サービス担当者会議とつなげる機会としています。	「年1回は…」と輪番参加をお願いしている運営推進会議の後を利用してサービス担当者会議をおこなうようにして、家族に出席してもらっています。日々の評価を職員がおこない、計画作成担当者が集約したうえで介護支援専門員が電子化する方法で進めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子や状態を介護記録として記録用紙やカルテに記入しています。その情報をもとに状態変化時や必要時には入居者カンファレンスを行い、介護計画の見直し等に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じて、その時に予定外であっても出来るだけ希望に即した対応をするよう心掛けています。家族とも協力し対応します。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域役員や近隣住民・ボランティアの方々が気軽に来所して下さるようになったため、イベント時等助けていただいています。日頃から積極的にコミュニケーションを図るようにし、信頼関係を築くようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	公立森町病院院長が主治医として月に一度、定期訪問診療を行っています。急な体調変化やケガ等に関しては、病院の往診支援室が対応して下さるため、スムーズに病院受診ができる体制が整っています。	現在の利用者全員が、月1回訪問診療をおこなう医師に変更していて、看護師資格をもつ管理者が立ち合っています。他科受診は家族が付添ってくださいますが、協力医内に設置の「在宅医療支援室」が要となり、医療情報を医師、事業所、家族で共有することが叶っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であるため、介護職員と連携し、病状管理や状態変化に対応しています。看護師は24時間体制で待機、必要時病院へ連絡し、協力を依頼します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前より森町病院とは情報交換を行っているため、入院決定のタイミングでホームでの様子を速やかに伝達し、活用していただいています。面談等にも可能な限り参加し、できるだけ早期退院となるよう調整しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に『重症化に係る指針』を説明し、基本的に初回往診時に家族同席のもと、急変時の対応や看取り希望かどうかなど医師と共に確認をとります。希望に応じて、対応します。	ここ3年ほどで10例ほどの看取り実績があります。「死に対する恐怖ということから少しずつ変化して、苦痛のないように対応して落ち着いてできました」と、本年5月の運営推進会議内で職員が発表するに至り、ケアサービスの一環として根付いていることが覗えます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時については、看護師が勉強会を行ったり、日々の業務において指導したりしながら、実践能力が身に付くようにしています。いざという時には看護師が指示を出し、職員が落ち着いて対応出来るようにします。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練においては、防火・防災・水害訓練を行い、避難する方法を職員・入居者共に確認身に付けるようにします。実際の災害時に協力していただけるよう、近隣住民との情報交換を続けています。	近隣河川は有事の氾濫も有り得るとして、近くの寺や施設に協力要請をおこない、年2回の防災訓練では利用者に知らせずに実施するなどのチャレンジも見られます。難聴の利用者には「家事です」「こちらに避難しましょう」というカードを示すといった工夫もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症ではあっても人格を尊重し、尊厳や言葉遣いについても気を付けるよう、常に朝礼等で周知しています。各入居者の状況があるため、集団生活であってもできるだけ個人を尊重するような対応を心掛けています。	「トイレに置く消耗品に個人名が入っている」との課題は目隠しカーテンで是正されています。職員の入れ替えもあって、例えばキャッチフレーズを決める時には「笑顔でてないんじゃないの」と省みる視点をもつ人材が残り、安定したケアサービスが推進されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人の気持ち・思いや考え方を尊重し、表出できるような状況設定に努めています。職員が決定するのではなく、本人が自己決定し、選択出来るような生活支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月や一週間、一日の予定はありますが、入居者の状態や状況により、無理だったり強制するようなことなく自分のペースで生活していただけるよう、臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の入居者の好みや趣味を把握し、髪形や化粧品・服装などできるだけ本人の趣向に沿うよう対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや調理レクを計画し、入居者主体で職員と共に行っています。普段食欲が低下した方でも、食べる事が楽しめるようなメニューを提供するようにします。流しそうめんは毎年好評で、たくさん食べていただけます。	ホットプレートをつかった調理レクリエーションが盛んで、ホットケーキやどら焼き、焼きそばなどを参加型で手作りしていますが、普段は出来あいの惣菜が業者から届いています。また菓子パンやカップラーメンも大好きなので、「お楽しみ」として提供しています。	冷凍食品の処理などについて業者に都度改善要求していくことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や嗜好・好みを考慮しながら、入居者の栄養状態や水分摂取量を把握し対応しています。食欲減退や状態変化時は、食べたいもの・食べられるものを提供し、栄養管理をします。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚染は肺炎につながることから、毎食後の口腔ケアや義歯管理は確実にこなしています。必要時は口腔外科外来にも協力を依頼し、対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居後の排泄パターンや回数をチェックし、把握します。できるだけトイレで排泄が出来るよう、少しのサインも把握するように努めます。訴えができない方は誘導し対応しています。	排泄チェック表をつけてパターンは把握しても、本人の拒否があるなどしてトイレに行かないことが原因で不機嫌になる負の連鎖となってしまうケースや、トイレに行くまでに失禁してしまう等と困難であっても、「利用者のことが大好き」だからと、にこやかに対応する職員が増えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬の処方に頼ることなく、乳製品やオリーブオイル等を使用し、排便を促すよう心掛けています。レクリエーション等はできるだけ全身運動を取り入れるようにし、また歌を唄って腹筋を使うようにするなど取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、職員の都合の時もありますが、基本的にはできるだけ入居者本人の希望に沿って入浴したいタイミングで入ることができるように努めています。拒否がある場合には、無理強いせず、機会を待つようにしています。	入浴は週2日を下限とし、毎日入るという人もいて、柔軟に対応しています。シャンプーや着替えを個別にボックスで備えるスペースが別にあることで脱衣スペースが広く、掃除手順も貼り出されずつきりと快適です。入浴後の塗薬情報も掲示され、リスク管理があることを視認しました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれの方の生活リズムを把握し、その人のペースで休息したり入眠したりできるようにしています。女子会や夜間の臨時カフェなど、臨機応変に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理指導を利用しており、薬剤に関しては森町病院担当薬剤師の指示のもとに管理しています。体調変化があれば速やかに報告し、対応できています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除や食後の洗い物・後片付け、洗濯物干しやたみ、畑仕事等、入居者の得意分野を活かした役割分担を行っています。やりがいを感じて、存在価値を実感していただけるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は、玄関先やテラスにて外気浴を行いながら、おやつにしたりレクリエーションを行ったりしています。希望があればお散歩や買い物・ドライブに出かけます。八月には遠足を計画中です。	玄関先やテラスで外気浴や茶話会を重ねています。散歩は1日の活動に位置付けてはいないものの、本人の希望で小國神社やあじさい寺などへドライブがてら出かけています。以前から「遠足を…」と希望していますが現状職員数など諸条件が整わず延期状態です。	外出が難しい状況にあるようですので、誕生月には行きたいところへの個別外出を進めることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各入居者一人に付き小口現金(お小遣い)を預かり、一緒に買い物をしたり職員代行で必要物を購入したりしています。代行購入後は、必ず本人と家族へお知らせしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については適宜希望があれば対応します。入居者も安心して落ち着く場合もあり、また遠方の家族の方へは情報提供ともなり、良い機会です。毎月入居者の方から家族へ、お手紙を書いて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員としての目線だけでなく、入居者自身や家族の目線もふまえた上で環境整備しています。自宅のようにリラックスできるよう、整い過ぎず少しホッとできるような場としています。	廊下は歩行訓練が十分叶い、またもう1つのユニットにはお隣さん訪問的な感覚もある広々としたスペースで、ゆったりとした空気が流れる共用空間です。また本年はユニット間の行き来がしやすいように、間口を広げる改装をおこなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール等の共通スペースで、皆さん共同で過ごす時間が多いです。ただ、その中でも仲良しの方が2人でテレビを見たり、4人でカルタをしたり、逆に一人で塗り絵に没頭するなど、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は、それぞれ本人が使い慣れたなじみのもの(仏壇等もある)を持参され、自室に置き、ホームでの生活を違和感のないようにしています。聖書を持参されている方もあります。	地震があつたときに「大きいものは危ない」として、家族に持ち帰ってもらったことを契機に、予め備わっているベッドと洗面台が目立つ居室となっています。未だ仏壇を置いている人もいますが、大抵はプラスチックの衣装ケース位で、そういった意味では動線はしっかり確保されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の理解度には差があるため、場所の表記をしたり職員が誘導したり目印をつけたりし、不安なく生活していただくよう対応しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300060	
法人名	株式会社 健康第一調剤薬局	
事業所名	グループホーム たんより さざんかユニット	
所在地	静岡県周智郡森町草ヶ谷212番地の1	
自己評価作成日	令和元年7月20日	評価結果市町村受理日 令和元年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2296300060-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室	
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A	
訪問調査日	令和元年7月30日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たんよりに入居していただくということは、その方の終末期までの責任を負うという覚悟を持ち、人生の最期を看取することも当然に行なっています。前回評価以来3名の看取りを行い、計10名の方をたんよりからお見送りさせていただきました。また、看取りを含めた介護業務が、職員の仕事に対するやりがいとなっているということも評価できると思います。たんよりに入居し生活していただくことが、入居者本人にとってもご家族にとっても安心していただけるよう、今後も公立森町病院や森町役場、近隣施設、地域の方々との交流を大切にして行きたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「やさしさ・安心・安寧」に基づき毎年事業所ではキャッチフレーズを設けており、今年度は「穏やかに笑顔で協力し、入居者の皆様と楽しい時間を過ごそう」と定め、日々実践していることは玄関での出迎えの挨拶やお茶出しの所作からも十二分に伝わります。また運営推進会議は今年度から職員が参加していて、最大で8名と意欲的な出席率となり、委員会活動の発表などを通じて地域へ向け理解を高めています。特に家族が「看取り体験」をスピーチくださった回は、参加メンバーにとって意味深い機会となり、「事故報告はオープンな体制が感じられ、よかった」とプログラムや進行についても評価を得ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は『やさしさ・安心・安寧』を掲げています。今年度は『穏やかに笑顔で協力し、入居者の皆様と楽しい時間を過ごそう』というキャッチフレーズを掲げ日々実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアや近隣住民の方が引き続きレクリエーションや畑の管理、農作物の差し入れ、雛人形の飾りをして下さっています。今年度も認知症カフェを地元高校生と共に開催する予定です。地域の夏祭りや文化祭にも毎年参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	たんより通信という新聞形式のものを発行し回覧していただいたり、運営推進会議で日々の状況を報告しています。認知症対策検討委員会への参加や他職種カンファレンス、認知症カフェの開催や参加を通じ、情報交換しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には入居者家族だけでなく、町内会長・副会長・民生委員、地域包括支援センターから参加して下さっています。また今年度より職員も全員参加とし、より現場の声をお届けすることで、アドバイスをいただいています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	森町役場や地域包括支援センターへは今も変わらず積極的に訪問することを心掛け、情報交換を直接行っています。介護相談員も引き続き定期訪問して下さり、アドバイスをいただいています。他職種合同カンファレンスにも毎回参加し意見を述べています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言は継続しています。ホーム会議においては拘束会議を開催し、トイレにもポスターを掲げるなど、職員間で意識統一しています。業務の煩雑な中でもスピーチロックの禁止等も引き続き行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護施設や介護関連の報道等に留意し、朝礼やカンファレンスで検討し、考える機会としています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も該当する入居者は居ませんが、他職種カンファレンス等ではよく議題にあがっています。参加職員より、情報を周知するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してはご家族様に時間を確保していただき、できるだけわかりやすいよう丁寧に説明することを心掛けています。環境が変化することでの心配や不安を少しでも多く解消できるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時にその都度状態を報告・意見交換をしたり、運営推進会議議事録や『たんより通信』、また担当職員からのお手紙を作成し、情報共有を心掛けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼において、日々情報交換や問題共有をしています。必要であれば適宜カンファレンスを行い、問題解決へとつなげるようにしています。毎年賞与時に人事評価を行い、日頃話せないような内容も聞き取るようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、各職員個人の反省と目標設定の機会を設け、業務に対する自己評価を提出してもらい、管理者として評価を行っています。各職員の能力を把握し、業務に対してのモチベーションが保てるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議やカンファレンスにおいて随時勉強会を行い、日々の業務において活用できるよう、職員同士が講師となり勉強の場を持つようにしています。職員の得意分野が活かせるように心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近所に小規模多機能ホームが存在しており、交流させていただいています。遊びに行ったり来たり、夏祭りでも一緒に楽しんでいきます。今年は新入居の方を紹介もさせていただきました。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や入居申込み、事前訪問や入居までの経過において、病状や現在の状況、入居者本人や家族の思いをできるだけ把握し、担当ケアマネージャーや利用施設職員らと情報交換をし、安心していただけるようなケアの提供に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、特に家族としてはどう考えているのか情報収集し、入居環境を整備し、一緒に考えながら問題解決できるようにしています。入居されてからも家族としての俯瞰を解消し信頼関係ができるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等・担当ケアマネージャー、また病院相談員・支援員、利用施設職員らと連携をとり、その時に何が必要なのか、ということを見極め、最善のサービス決定となるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームならではの、出来る事をやっただけという役割分担から、ホーム内の家事等は入居者と一緒に行なっています。可能な入居者はそれぞれに役割が分担され、生活の場を整えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等が、入居者とのホーム入居以前からの関係性を継続できるようにします。面会や外出泊は制限なくいつでも出来るようにしています。気軽に来所していただけるよう、コミュニケーションも心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思い出話や過去の話を傾聴しています。実家や学生時代、戦時中の話題が多いのですが、関連のある内容を提供したり、必要であれば家族等に連絡をとったりします。面会や外出泊は制限なく自由出来る体制をとっています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2ユニットではありますが、互いのユニットが行き来できる構造となっているため、ユニットの垣根を越えて良好な関係性ができています。どちらのホールで過ごすか、食事を摂るかなども各入居者の自由であり、孤立することなく過ごしていただいています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの入居者を看取りまで対応させていただいています。死亡退去の場合はデスカンファレンスを行い、職員から家族等へメッセージを届けます。自宅へ退去される場合は退去時指導を通じて、地域包括支援センターへ情報提供しフォロー体制としています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中自室で過ごす方もありますが、ほとんどの入居者がホールで過ごしているため、会話から要望が聞かれることがあり、カンファレンスで共有し対応します。自室で過ごしている方へも訪室時に希望を確認し、対応しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学や入居申込み、事前訪問、契約時等に生活歴や今までの経過・人物像を情報収集し把握できるようにしています。またケアマネージャーや利用サービス職員へも確認するようにしています。クリスチャンで毎週礼拝に通う方もおり、大切な時間としています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を介護記録として残しており、職員が情報共有しています。一人一人がどのような状態にあるのか、必要時話し合い対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の訴えや生活状況・家族の意見や希望を反映させ、カンファレンスを行い介護計画を検討し立案しています。運営推進会議出席時などに、サービス担当者会議とつなげる機会としています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子や状態を介護記録として記録用紙やカルテに記入しています。その情報をもとに状態変化時や必要時には入居者カンファレンスを行い、介護計画の見直し等に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じて、その時に予定外であっても出来るだけ希望に即した対応をするよう心掛けています。家族とも協力し対応します。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域役員や近隣住民・ボランティアの方々が気軽に来所して下さるようになったため、イベント時等助けていただいています。日頃から積極的にコミュニケーションを図るようにし、信頼関係を築くようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係が築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	公立森町病院院長が主治医として月に一度、定期訪問診療を行っています。急な体調変化やケガ等に関しては、病院の往診支援室が対応して下さるため、スムーズに病院受診ができる体制が整っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であるため、介護職員と連携し、病状管理や状態変化に対応しています。看護師は24時間体制で待機、必要時病院へ連絡し、協力を依頼します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前より森町病院とは情報交換を行っているため、入院決定のタイミングでホームでの様子を速やかに伝達し、活用していただいています。面談等にも可能な限り参加し、できるだけ早期退院となるよう調整しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に『重症化に係る指針』を説明し、基本的に初回往診時に家族同席のもと、急変時の対応や看取り希望かどうかなど医師と共に確認をとります。希望に応じて、対応します。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、看護師が勉強会を行ったり、日々の業務において指導したりしながら、実践能力が身に付くようにしています。いざという時には看護師が指示を出し、職員が落ち着いて対応出来るようにします。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練においては、防火・防災・水害訓練を行い、避難する方法を職員・入居者共に確認し身に付けるようにします。実際の災害時に協力していただけるよう、近隣住民との情報交換を続けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症ではあっても人格を尊重し、尊厳や言葉遣いについても気を付けるよう、常に朝礼等で周知しています。各入居者の状況があるため、集団生活であってもできるだけ個人を尊重するような対応を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人の気持ち・思いや考え方を尊重し、表出できるような状況設定に努めています。職員が決定するのではなく、本人が自己決定し、選択出来るような生活支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月や一週間、一日の予定はありますが、入居者の状態や状況により、無理だったり強制するようなことなく自分のペースで生活していただけるよう、臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の入居者の好みや趣味を把握し、髪形や化粧品・服装などできるだけ本人の趣向に沿うよう対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや調理レクを計画し、入居者主体で職員と共に行っています。普段食欲が低下した方でも、食べる事が楽しめるようなメニューを提供するようにします。流しそうめんは毎年好評で、たくさん食べていただけます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や嗜好・好みを考慮しながら、入居者の栄養状態や水分摂取量を把握し対応しています。食欲減退や状態変化時は、食べたいもの・食べられるものを提供し、栄養管理をします。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚染は肺炎につながることから、毎食後の口腔ケアや義歯管理は確実にこなしています。必要時は口腔外科外来にも協力を依頼し、対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居後の排泄パターンや回数をチェックし、把握します。できるだけトイレで排泄が出来るよう、少しのサインも把握するように努めます。訴えができない方は誘導し対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬の処方に頼ることなく、乳製品やオリーブオイル等を使用し、排便を促すよう心掛けています。レクリエーション等はできるだけ全身運動を取り入れるようにし、また歌を唄って腹筋を使うようにするなど取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、職員の都合の時もありますが、基本的にはできるだけ入居者本人の希望に沿って入浴したいタイミングで入ることができるように努めています。拒否がある場合には、無理強いせず、機会を待つようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれの方の生活リズムを把握し、その人のペースで休息したり入眠したりできるようにしています。女子会や夜間の臨時カフェなど、臨機応変に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理指導を利用しており、薬剤に関しては森町病院担当薬剤師の指示のもとに管理しています。体調変化があれば速やかに報告し、対応できています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除や食後の洗い物・後片付け、洗濯物干しやたみ、畑仕事等、入居者の得意分野を活かした役割分担を行っています。やりがいを感じて、存在価値を実感していただけるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は、玄関先やテラスにて外気浴を行いながら、おやつにしたりレクリエーションを行ったりしています。希望があればお散歩や買い物・ドライブに出かけます。八月には遠足を計画中です。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各入居者一人に付き小口現金(お小遣い)を預かり、一緒に買い物をしたり職員代行で必要物を購入したりしています。代行購入後は、必ず本人と家族へお知らせしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については適宜希望があれば対応します。入居者も安心して落ち着く場合もあり、また遠方の家族の方へは情報提供ともなり、良い機会です。毎月入居者の方から家族へ、お手紙を書いて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員としての目線だけでなく、入居者自身や家族の目線もふまえた上で環境整備しています。自宅のようにリラックスできるよう、整い過ぎず少しホッとできるような場としています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール等の共通スペースで、皆さん共同で過ごす時間が多いです。ただ、その中でも仲良いの方が2人でテレビを見たり、4人でカルタをしたり、逆に一人で塗り絵に没頭するなど、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は、それぞれ本人が使い慣れたなじみのもの(仏壇等もある)を持参され、自室に置き、ホームでの生活を違和感のないようにしています。聖書を持参されている方もあります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の理解度には差があるため、場所の表記をしたり職員が誘導したり目印をつけたりし、不安なく生活していただくよう対応しています。		